<パッションフルーツ疫病>

立枯れの被害園

被害樹の立枯れ症状

地際部の症状

葉の水浸状病斑

果実の水浸状病斑

＜パッションフルーツ疫病＞

病原菌：Phytophthora nicotianae van Breda de Haan var. parasitica(Daster) Waterhouse

1. 症　　状

葉ではオリーブ色～灰褐色、水浸状の病斑を生じ、急速に拡大し、激しい葉腐れと落葉を起こす。果実では淡褐色となり、腐敗、落下する。茎では主として地際部、特に中間部を灰褐色、水浸状の軟腐病斑が取り巻き、急性立枯れを生じ、被害が大きい。新鮮な病斑上には多湿条件下で、病原菌と菌糸と遊走子のうによる薄い白色菌そうを生じる。古い病斑では二次的に寄生した Fusariun 属菌などによる厚い白色菌そうを生じることが多いので、新鮮な病斑により診断する。

2. 生　　態

高温多湿条件上で発生しやすく、湿潤状態が続くと急速に蔓延する。病原菌は主として遊走子により伝染する。遊走子は湿潤土壌を伝い宿主に集泳するとともに、降雨中の雨滴の跳ね上げによっても伝染する。発病組織中に形成された卵胞子、厚膜胞子は枯死後も植物残渣中で生存が可能である。また、パッションフルーツの栽培棚下のツユクサ、アシタバ、コルジリーネの病斑から分離された疫病菌も同一種と同定され、相互の伝染源となる可能性がある。

3. 防　　除

1) 雨水が停滞しないよう高うねとし、排水を良好に保つ。
2) 強風により、発病が助長されるので、防風に留意する。
3) 落病葉、病果実、立枯れ株は直ちに除去し、焼却する。
4) 栽培棚下の不要な植物を除去する。栽培種であれば発病株を除去する。

4. 記　　事

立枯症状は、八丈島で以前から知られていたが、1989年に疫病による立枯れが確認された。